

木づかいの新たな価値創造への期待

『ウッドデザインコンセプトブック 2015 発刊によせて』

本年度、新たに「ウッドデザイン賞（新・木づかい顕彰）」が創設されました。第1回の開催にもかかわらず、全国各地から先進的な事例が数多く寄せられました。ウッドデザイン賞は、暮らしの質を高める「ライフスタイルデザイン部門」、人の心を豊かにする「ハートフルデザイン部門」、地域や社会を活性化する「ソーシャルデザイン部門」の三部門を設け、機能性等に優れる木製品や建築物はもとより、木材を資源として地域の活性化につなげている取組など、木材を活用した様々な取組を幅広く表彰するものです。これにより、消費者に木を使うことの価値を明らかにして、意識改革を促し、木材利用をさらに拡大していこうという意欲的な活動です。

地域の木を活かした建築・空間や木製品の開発、それを支える技術や木づかいを促進する活動など、幅広い対象が受賞され、そのいずれもが機能性や快適性に優れていたり、社会性や物語性を持っていたりするものです。こうした先進事例を広く消費者の方々や社会に伝えることで理解が促され、市場が拡大し、木材を取り巻く関係者の積極的な参画につながるものと考えています。

2020年には東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されます。その競技施設、選手村等の木造化・木質化は、我が国の木の文化を世界に対して発信する好機です。受賞作品に見られるさまざまな木づかいは、まさに日本ならではの思いやりや使いやすさ、地域への思いといった「気づかい」に満ちているものばかりです。

こうした取組が世界へ向けても価値をもたらすものになると確信しています。ウッドデザイン賞を通じて、木づかい運動がさらに国民生活に根づいた運動として発展し、新たな木づかいの可能性が拓かれ、川上・川中・川下をつなぐ卓越した取組が広がり、林業の成長産業化と独自性ある地方創生が実現することを期待しています。

平成28年3月

農林水産大臣 森山裕



はじめに

このたび、「ウッドデザインコンCEPTブック2015」を刊行する運びになりました。

「ウッドデザイン賞（新・木づかい顕彰）」は、

消費者目線での木の良さや価値を有する製品や取組、

ビジネスモデル等のグット・プラクティスを広く募集し、

国内外に発信するための新たな顕彰制度として、本年度、新たに創設されました。

暮らしを豊かにする、人を健やかにする、社会を豊かにするという3つの視点から、

デザインに優れた作品を表彰する点が最大の特長です。

本誌には記念すべき第1回のウッドデザイン賞の受賞作品、

審査委員のメッセージやディスカッションを掲載しています。

ウッドデザイン賞を通じて、木づかいに関する先進的かつ継続的な優れた事例が広く認知され、

木のある暮らしが広がり、市場の拡大や健全な森林づくりの促進、

地域や農山村の活性化につながることを目指しています。

目次

- 2 木づかいの新たな価値創造への期待
- 4 ウッドデザイン賞2015を振り返る
- 6 審査委員からのメッセージ
- 8 ディスカッション
「ウッドデザインが目指すもの」
- 13 最優秀賞・優秀賞・奨励賞
- 31 入賞
- 97 索引
- 99 実施概要
- 101 ウッドデザインサポート連絡会のご紹介
- 104 ウッドデザイン・パートナー・マークについて